



日耳鼻医会 FAXニュース

平成29年2月7日発行 第247号

◎創立50周年記念式典の会次第決定

国会前年の日本耳鼻咽喉科医会連合会が設立されてから50周年にあたる今年の7月に記念式典開催が計画されていたが、東京都耳鼻咽喉科医会が中心になって企画、1月22日(日)開催された日耳鼻医会平成28年度第5回全理事会で式典の詳細が以下のように発表された。
日時:平成29年7月15日(土)

記念式典・記念講演 午後4時半～

記念祝賀会 午後6時半～

会場:京王プラザホテル 南館3階&5階

記念講演は国立病院機構東京医療センター名誉臨床研究センター長加我君孝先生が「先天性難聴児および高齢者の難聴と人工内耳手術～聴覚の獲得の成果と仮題～」と題して講演される。

翌7月16日(日)は会場を日経ホールに移して第42回臨床家フォーラムを午前9時から午後1時まで開催。

大久保公裕教授(日医大)の「鼻アレルギーの治療と安全」(共通講習申請)、小川郁教授(慶応大)の「認知症予防の補聴器の適応」(領域講習申請)、日本医師会常任理事釜范敏先生「地域医療について」の講演が予定されている。

◎平成28年度第5回全理事会

1月22日(日)、本年初めての全理事会が東京の事務所で開催された。冒頭、伊東理事長は年頭の挨拶で、来年には新しく全国組織の耳鼻科医会が出来、当会は解散するであろうが、新しい組織の中にも50年の伝統を引き継いで行けるよう努力したいと述べた。

次いで協議に入り、庶務報告の後、創立50周年記念式典および第42回臨床家フォーラムの進捗状況が報告された。記念式典の中で当会の発展に尽力された会員に感謝状を贈ることを決め、各医会長にも該当者を推薦して貰うことにした。

第41回臨床家フォーラム「中四国フォーラムin下関」の収支報告があり、会場費を安く抑さえる事が出来、予算内で収まったと報告された。

この後、全国組織の耳鼻科医会設立に対しての今後の対応について、討議が行われた。色々な意見が出されたが、平成29年度の活動は従来通りおこない、NPOの解散は連絡協議会の推移を見極めてから臨時代議員会を行うことで意見が纏まった。

次回平成28年度第6回全理事会は3月26日開催予定。

◎第17回日本臨床分科医会代表者会議

1月26日(木)午後4時から日本医師会で開催され、当会からは中澤副理事長が出席した。

日本医師会から「各医会の男女共同参画の取り組み」が議題として上程され、意見交換が行われた。当会からは、専門医の更新の際に子育て中の女性医師などの事も考慮してeラーニングの導入、1週間の診療日数や時間に関係なく、年間40症例の報告を行えば臨床を続けるとみなす事を学会で決めている事を報告した。

会議終了後、懇親会が開かれ、当会の50周年記念式典の案内を行い、参加をお願いした。

◎第4回医会全般に関するWG会議

1月29日(日)午後1時より霞ヶ関の東海大学校友会館で委員全員が集まって第4回WG会議が開かれ、当会からは伊東理事長が出席した。第3回WGの議事録を確認した後、協議に入り、今後のスケジュール、連絡協議会の役割・構成・業務・課題他が協議された。また、中間答申(案)について協議した。次回は4月22日(土)開催予定。

■他人のiPS移植手術へ 世界初、

目の細胞再生 今年前半、神戸市民病院

重症眼疾患の患者に、他人の人工多能性幹細胞(iPS細胞)から作った網膜の細胞を移植する手術を厚労省の専門部会が了承。厚労相が正式に通知を出す。

他人のiPS細胞を使う移植は世界初。理化学研究所や神戸市立医療センター中央市民病院を中心とするチームは、今年前半の手術を目指している。

あらかじめ備蓄してある他人のiPS細胞を使えば、移植まで11カ月かかった期間を最短1カ月に短縮でき、約1億円の費用も5分の1以下になると見込まれる。

専門部会は安全性を審議。理研の高橋政代プロジェクトリーダーらが、動物実験や細胞の遺伝子解析から移植後にがん化する危険性は考えられないと説明したのを了承した。計画は滲出型加齢黄斑変性の患者5人程度が対象で、再生医療の臨床研究として実施する。移植しても拒

絶反応が少ない型の人から京都大が作り備蓄しているiPS細胞を使う。

理研多細胞システム形成研究センター(神戸市)が網膜細胞に成長させ、市民病院と大阪大が網膜細胞を含んだ溶液を患者の目に注入して移植する。

■新規マクロライド系抗菌薬のP3開始

富山化学工業は2016年12月5日、新規マクロライド系抗菌剤「T-4288」(一般名・ソリスロマイシン)について、市中肺炎患者などを対象にした国内第3相臨床試験(P3)を開始したと発表した。

同剤は米センプラ社が創製した新規マクロライド系抗菌剤。既製品のマクロライド耐性の肺炎球菌、マイコプラズマに対して強い抗菌活性を示し、比較的高い免疫調整作用を有する。センプラは4月、細菌性の市中肺炎の適応で米国食品医薬品局(FDA)、6月に欧州医薬品庁(EMA)に薬事承認申請している。

富山化学は、センプラと2013年5月に国内での独占開発・製造・販売契約を締結。15年から開始した国内P2では、市中肺炎患者に対する有効性、安全性とともに耳鼻咽喉科領域での組織移行性を確認している。

今回開始した国内P3は、市中肺炎などの呼吸器科領域や耳鼻咽喉科領域の感染症患者を対象としている。

TM & © TOHO CO., LTD.

選択的ヒスタミンH1受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 薬価厚生収載

タリオン®錠5mg・10mg
OD錠5mg・10mg

TALION® Tablets 5mg・10mg (日本薬局方 ペボスタチンベシル酸塩)
TALION® OD Tablets 5mg・10mg (ペボスタチンベシル酸塩口腔内崩壊錠)

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意等については、添付
文書をご参照ください。

2015年5月作成

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
TEL:(03)5524-5230 FAX:(03)5524-5228
HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail: jimu@jenti.or.jp
当会へのご意見ご要望ご提案をお寄せ下さい